

筑後川の現地調査概要

- ・筑後川では、台風や集中豪雨により昭和 28 年 6 月の「昭和 28 年筑後川大水害」を始めとする水害が幾度も発生している。
- ・文献調査に基づき、過去の記録が残る地域において詳細情報を収集するため、筑後川で現地調査を実施した。

調査地点：福岡県筑後川



▲調査箇所図

出典：国土地理院

【昭和 28 年筑後川大水害の概要】

- ・昭和 28 年 6 月の九州一帯を襲った梅雨前線による豪雨は、西日本一帯に大きな被害をもたらした。筑後川では 122 箇所が破堤し、筑後川右岸 50 キロメートル付近の朝倉堤防の破堤は延長約 600 メートルに及んだ。
- ・筑後川流域内の被害は、死者数 147 人、流出全半壊家屋約 12,800 戸、床上浸水家屋約 49,200 戸、床下浸水家屋約 46,300 戸、被災者数約 54 万人に及ぶ甚大なものとなった。

▼昭和 28 年筑後川大水害による筑後川水系の被災状況

死者、行方不明者	147 名
被災者数	54 万人
流失及び全半壊戸数	12,801 戸
床上浸水	49,201 戸
床下浸水	46,323 戸
破堤	122 箇所

出典：筑後川水系河川整備計画（平成 30 度 3 月）[国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所]

【昭和 28 年筑後川大水害の被災状況】



▲久留米市宮の陣橋と陣鉄橋



▲久留米市小森野橋

出典：[国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所 HP 懐かし写真館]



▲日田市街地



▲日田市街地



▲久留米市合川



▲久留米市東榎原

出典：筑後川水系河川整備計画（平成 30 年 3 月）[国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所]

【昭和 28 年 6 月洪水の記念碑：福岡県うきは市吉井町 大水害記念之碑】

- ・福岡県うきは市吉井町の筑後川沿岸に昭和 28 年 6 月の筑後川水害に係わる復旧碑が建っている。



▲大水害記念之碑の位置（福岡県うきは市吉井町）



▲大水害記念之碑（福岡県うきは市吉井町）

出典：自然災害伝承碑データ [国土地理院]

【昭和 28 年 6 月洪水の復旧碑：佐賀県鳥栖市 筑後川復旧碑】

- ・佐賀県鳥栖市酒井東町の宝満宮境内に、昭和 28 年 6 月の筑後川水害に係わる復旧碑が建っている。



▲水害復旧記念之碑の位置（佐賀県鳥栖市）



▲水害復旧記念之碑がある宝満宮（佐賀県鳥栖市酒井東町）

平成 27 年 2 月 13 日撮影



▲水害復旧記念之碑（佐賀県鳥栖市酒井東町）

平成 27 年 2 月 13 日撮影

■水害復旧記念之碑の碑文

水害復旧記念碑昭和二十八年六月二五日より四日間に亘る大豪雨の為宝満川秋光川大木川が氾濫し堤防決潰六ヶ所農地潰滅六町壹反歩両区は全戸軒下浸水の未曾有の災害を蒙った国家補助及縣村当局の絶大なる援助と区民の一致団結不眠不休の努力により見事復旧工事を完成した仍って之を永久に記念するため此の碑を建立する

工事内容・被害面積 三太郎東壺町壺反六畝 三太郎西六反六畝 ハキヤ壺町壺反五畝小柳七反七畝 総工事費貳百參萬壺千圓」 （昭和三四年一月建立 基里村長 高島正雄）

【昭和 28 年 6 月洪水で埋まった鳥居：佐賀市鍋島町 天満宮】

- ・佐賀県佐賀市鍋島町の天満宮境内には、昭和 28 年の筑後川水害で田んぼに埋まった鳥居が掘り起こされ、再度建設されている。
- ・下記写真の奥側に位置する石造りの鳥居が再建されたものである。



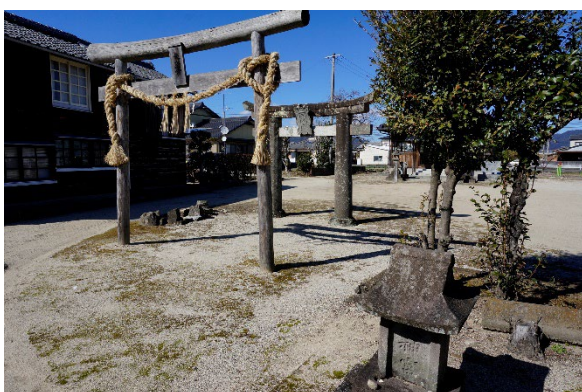
▲天満宮の位置（佐賀県鍋島市）



▲天満宮の鳥居（正面より天満宮方向）



▲天満宮の鳥居（天満宮方向より）



▲天満宮入口



▲天満宮本殿

平成 27 年 2 月 13 日撮影

【昭和 28 年 6 月水害の洪水碑：大分県日田市大山町西大山小平 洪水碑】

- ・大分県日田市大山町西大山小平の大山川沿いに、昭和 28 年 6 月の水害に係わる復旧碑が建っている。
- ・昭和 28 年 6 月の水害で小平集落が大きな被害を受けたことを伝えるために建てられた。碑の裏側には当時の浸水した高さが刻まれている。



▲洪水碑（日田市大山町西大山小平）

令和 3 年 2 月 21 日撮

影

【平成 29 年 7 月九州北部豪雨の概要】

- ・平成 29 年 7 月の九州北部一帯を襲った豪雨は、九州一帯に大きな被害をもたらした。
- ・筑後川水系筑後川では、片ノ瀬水位観測所、花月水位観測所、上曾木水位観測所、下唐原水位観測所ではそれぞれ既往最高水位を観測した。
- ・筑後川流域では 7 月 11 日～14 日の 4 日間の期間降水量が 500mm を超える記録的な降雨を観測し、14 地点の雨量観測所において 1 時間雨量が 80mm を超えた。
- ・この大雨は 6 月 7 日～7 月 27 日まで続き、福岡県では死者 37 名、行方不明者 2 名、大分県では死者 3 名の被害に加え、多大な建物被害を出した。

▼平成 29 年九州北部豪雨による筑後川水系の被災状況

床上浸水	282 戸
床下浸水	567 戸
浸水面積	1646.3ha

【平成 29 年 7 月九州北部豪雨の被害状況】



▲桂川浸水状況



▲北川被災状況



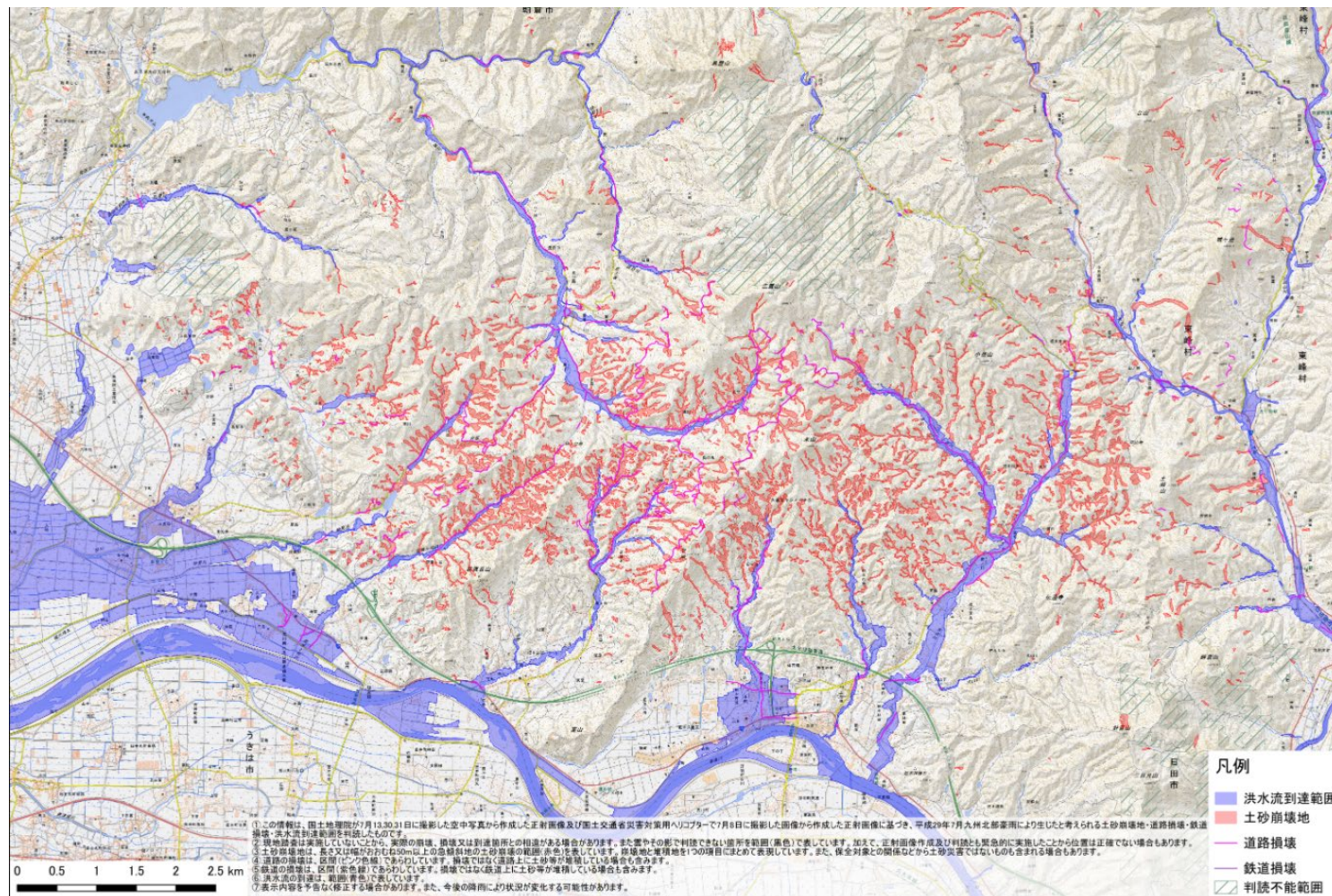
▲赤谷川被災状況



▲大肥川被災状況

出典：筑後川水系河川整備計画（平成 30 年度 3 月）[国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所]

▼平成 29 年 7 月九州北部豪雨の筑後川水系被害状況



出典：「平成 29 年 7 月九州北部豪雨に関する情報」（国土地理院）

【慶長9年起工の堤防：佐賀県三養基郡みやき町 茂安公築堤功績碑】

- ・佐賀県三養基郡みやき町に位置する筑後川西岸の堤防には茂安公築堤功績碑が建っている。
- ・古来より筑後川は「暴れ川」と言われ、大雨の度に大洪水に見舞われており、この水害を防ぐために佐賀藩家老・成富兵庫茂安公は筑後川西岸（現在のみやき町千栗～坂口）に、全長12kmにもおよぶ堤防を作りあげた。



▲茂安公築堤功績碑位置（佐賀県三養基郡みやき町）



▲茂安公築堤功績碑

平成27年2月13日撮影

■茂安公築堤功績碑文

千栗堤防 千栗ヨリ坂口マデ蜿蜒（えんてい）三里 茂安公慶長九年 起工ヨリ十二ヶ年ノ歲月ヲ 経テ成就セラレシモノナリ コノ功績ヲ永久ニ讃ヘン為茲（ここ）ニコノ碑ヲ建築ス 昭和十年十月十日

【明治 22 年 7 月大雨水害：大分県日田市若宮町 人助けの棕の木】

- ・明治 22 年 7 月大雨による洪水は筑後川 3 大洪水と呼ばれ、筑後川流域で家屋被害 57,368 戸、死者 70 名。遠賀川流域では死者 11 名、家屋被害 2,196 戸の被害が生じている。
- ・大分県日田市若宮町の三隈川沿いに、明治 22 年 7 月の水害に係わる人助けの棕の木がある。
- ・明治 22 年 7 月大雨による三隈川氾濫の際、60 人近く（50 数人という記述もある）がこの木に登って助かったという記録が残っている。



▲人助けの棕の木の位置（大分県日田市若宮町）



▲人助けの棕の木

令和 3 年 2 月 21 日撮影

【大正 10 年 6 月水害：大分県日田市若宮町 霊木保存記念碑】

- ・筑後川三大水害に数えられる大正 10 年 6 月水害では、橋流失、堤防決壊。大山川流域の部落 23 戸が流され、日田市では死者 13 名を出したとされている。
- ・この災害においても人助けの棕の木のおかげで付近の竹工場の人たち 28 名と漂流した 2 名の命が助かったとされており、大分県日田市若宮町の三隈川沿いに、大正 10 年 6 月の水害に係わる霊木保存記念碑が建っている。人助けの棕の木は霊木として市の指定保存樹となっており、木のそばには霊木保存の記念として建てられている。



▲霊木保存記念碑の位置（大分県日田市若宮町）



▲霊木保存記念碑

令和 3 年 2 月 21 日撮影

▼筑後川水系既往洪水の概要

洪水発生年		原因	瀬の下地点 水位	洪水被害の概要
明治18年6月	1885年	梅雨	2丈5尺5寸 (7.72m)	国直轄工事として統一した改修計画（第1期改修計画）策定の契機となった洪水
明治22年7月	1889年	梅雨	2丈8尺4寸5分 (8.62m)	死者日田18人、久留米52人、家屋被害日田8,460戸、久留米48,908戸 第2期改修の必要性を痛感せしめた洪水（筑後川3大洪水）
大正3年6月	1914年	梅雨	6.29m	家屋被害5,130戸（中下流） 降雨量で既往の洪水を大きく上回った洪水
大正10年6月	1921年	梅雨	7.11m	家屋被害11,620戸（中下流） 第3期改修の契機となった洪水（筑後川3大洪水）
昭和3年6月	1928年	梅雨	6.29m	家屋被害14,434戸（中下流） 4大捷水路の開削が促進される契機となった洪水
昭和10年6月	1935年	梅雨	7.15m	家屋被害30,858戸（中下流） 中下流型降雨により支川改修手の契機となった洪水
昭和16年6月	1941年	梅雨	6.53m	家屋被害4,235戸（中下流）
昭和28年6月	1953年	梅雨	9.02m	死者147人、流出全半壊12,801戸、床上浸水49,201戸、床下浸水46,323戸 破堤等122箇所、被災者数54万人 現在の治水計画の目標となっている洪水（筑後川3大洪水）
昭和47年7月	1972年	梅雨	5.17m	床上浸水142戸、床下浸水4,699戸
昭和54年6月	1979年	梅雨	6.44m	床上浸水71戸、床下浸水1,355戸
昭和55年8月	1980年	秋雨	5.46m	床上浸水713戸、床下浸水7,395戸 下流域の内水被害が甚大で、佐賀江川で激特事業が採択
昭和57年7月	1982年	梅雨	6.08m	床上浸水244戸、床下浸水3,668戸
昭和60年6月	1985年	梅雨	5.10m	床上浸水61戸、床下浸水1,735戸
昭和60年8月	1985年	台風	—	床上浸水487戸、床下浸水1,517戸 （花宗地区床上140戸、床下324戸 寺井地区床上14戸、床下49戸） 台風13号と満潮が重なり下流域で大規模な高潮被害が発生
平成2年7月	1990年	梅雨	5.48m	床上浸水937戸、床下浸水12,375戸 下流域の内水被害が甚大で、佐賀江川で激特事業が採択
平成3年9月	1991年	台風	—	風倒木面積19,000ha、風倒木本数1,500万本（夜明上流域） 台風17、19号による記録的な烈風により上流山地部で大量の 風倒木が発生
平成5年9月	1993年	台風	4.56m	床上浸水156戸、床下浸水135戸 玖珠川で大きな洪水を記録
平成13年7月	2001年	梅雨	3.84m	床上浸水23戸、床下浸水180戸 花月川支川有田川、寒水川で氾濫
平成24年7月	2012年	梅雨	6.54m	床上浸水162戸、床下浸水442戸 花月川、隈ノ上川、巨瀬川で氾濫し、花月川で激特事業が採択
平成29年7月	2017年	梅雨	5.66m	床上浸水282戸、床下浸水567戸（速報値） 花月川や中流右岸支川（赤谷川等）で大きな洪水を記録

出典：筑後川水系河川整備計画（平成30年3月）[国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所]

<参考文献> 「筑後川 その治水と利水」国土開発調査会 旧建設省九州地方建設局

表-2-1 明治以前の洪水記録

西暦	年号	洪水および被害状況
806年	大同1年	大宰府管内、水害とかんぼつにより田圃荒廃。筑後の国1ヶ年田租を免ぜらる。
938	天慶1年7月	大雨洪水—阿蘇川(現大山川)、玖珠川がはん濫。日田郡大原神社、広園寺が流失。
1386	至徳3年	大洪水—玖珠郡浸水1ヶ月間におよび、人畜は山嶽に避難する。 溺死者800余人、田畑の損害甚大。
1578	天正6年	大雨洪水—玖珠川はん濫、日田村中一面浸水。
1625	寛永2年	千栗堤防3ヶ所決壊。
1627	〃 4年7月	洪水—洗切瀬ノ下3段浸水、五穀収穫なし。
1630	〃 7年5月	大雨洪水—久留米城下の流失多し。
1632	〃 9年8月	大風高汐—潰家多し。
1658	万治1年7月	霖雨洪水—小瀬川はん濫、人馬の流失多し。
1659	〃 2年	霖雨洪水—田畑荒廃、飢饉、幕府使来る。
1668	寛文8年5月	大雨洪水—上5郡堤防防すべて決壊、被害甚大、高田水道全部破壊される。
1669	〃 9年8月	大雨洪水—人馬流失多し、国監久留米に下向する。
1673	延宝1年5月	大雨洪水—17、18日近年に見ない大雨のため、沿岸堤防決壊、瀬ノ下町床上浸水、人馬流失多し。
1675	〃 3年5月	霖雨洪水—14日梅雨入(初めて暮に見える)、柳原堤決壊、人馬流失多し。
1676	〃 4年5月	霖雨洪水—延宝元年の水より高い。
1680	〃 8年7月	山汐(山津波)洪水—瀬ノ下町床上2尺余浸水。
1681	天和1年	洪水、飢饉、幕府使来る。救米(1日1人1合6勺づつ)給す。
1685	元禄8年7月	大雨洪水—(7月4日)
1702	〃 15年	霖雨洪水—5月から8月まで洪水32回におよぶ、家屋、田畑流失多く被害甚大、久留米藩の損耗14万3千石、五穀騰貴す。
1708	宝永5年2月	大雨洪水—(2月2日)
〃 〃 4月	大雨洪水—下流合流先、久留米町内身で通る、田畑荒廃、藩内の損耗12万石。	
1730	享保5年6月	霖雨洪水—生葉郡(日精山系)山津波、柳原堤決壊、田畑、家屋の流失多し、死者61人、負傷32人、牛馬溺死4、山崩れ大小70余ヶ所、大被害の村44ヶ村、田畑荒廃9,500町歩、損耗10万8千石、家屋流失211戸。救米1,500石を出す。 又、肥前の損耗14万7千石、家屋の流失116軒。
1721	〃 6年6月	霖雨洪水—五穀高値(米120匁、大麦70匁、小麦80匁)
1726	〃 11年5月	大雨洪水—(5月22日)
1730	〃 15年4月	暴風雨洪水—(4月27日) 麦不熟、在方荒災を食す。
1732	〃 17年5月	大雨洪水—(5月9日) 6月より7月にかけて気候不順日々霧雨降り、蝗発生、飢饉、餓死藩内1万1千余人、馬疫流行死馬4千余疋、9月2日幕府より1万5千両借入。
1742	寛保2年	6月初めより7月末まで霖雨、洪水33度に及ぶ。
1745	延享2年7月	霖雨洪水—長野水道半分崩壊する。
1749	寛延2年5月	大雨洪水—(5月13日)
1755	宝暦5年5月	日田地方5月13日から6月21日迄霖雨つづく。
1757	〃 7年4月	霖雨洪水
1765	明和2年8月	霖雨洪水
1767	〃 4年6月	暴風雨洪水—(6月7日) 宮地出水2丈、高野村堤、石橋口堤崩れ、久留米城下浸水。
1769	〃 6年6月	霖雨洪水
1776	安永5年4月	大雨洪水(4月14日) 新番所1丈8尺、又5月、7月と洪水あり。
1779	〃 8年8月	大雨洪水—3日より大雨、5日洪水、小森野堤4ヶ所崩壊、城内及び町内に浸水、家屋及び牛馬溺死、宮地出水2丈余、救米4,360俵。
1788	天明8年	(5月29日) 日田地方60年來の大洪水。(6月3日) 久留米城下浸水。
1789	寛政1年	大雨洪水—8日より大雨、14日、15日大洪水、石橋口1丈9尺余、小森野堤崩壊、家屋の浸水多し。
1790	〃 2年4月	洪水—(4月25日)
1791	〃 3年6月	洪水—(6月12日) 損耗11万1千石、救米。

西暦	年号	洪水および被害状況
1792年	寛政4年5月	洪水—(5月21日) 石橋口1丈9尺余。
1793	〃 5年5月	霖雨洪水。
1796	〃 8年6月	大洪水—星野山崩る。
1802	享和2年5月	大雨洪水—(5月15日) 耳納山系山津波、宮地出水1丈9尺余、下流農家9戸流失、その他石垣崩れ、大破流失あり。救米2千俵。
1804	文化1年5月	大雨洪水—宮地1丈9尺。
〃 〃 8月	水風雨洪水—被害多し。	
1807	〃 4年8月	洪水—(8月5日)
1810	〃 7年5月	霖雨洪水—(5月20日) 石橋口1丈5尺余。
1811	〃 8年5月	洪水—(5月10日)
1814	〃 11年7月	大雨洪水—(7月16日) 宮地渡場1丈9尺2寸、損耗7万俵。救米。
1815	〃 12年7月	大雨洪水—(7月10日) 宮地1丈6尺余、13日強雨増水。
1816	〃 13年6月	洪水—(6月15日) 石橋口1丈5尺余。
1820	文政3年5月	洪水—(5月19日) 石橋口1丈5尺余。
1824	〃 7年6月	洪水—(6月10日) 石橋口1丈7尺余。
1825	〃 8年5月	洪水—(5月1日) 小森野1丈6尺。
1826	〃 9年6月	大風雨洪水—田畑損害4,230石、山崩れ筋谷23ヶ所、本谷筋11ヶ所、甘水谷筋6ヶ所、白坂筋40ヶ所、西念山2ヶ所、久留米領内浸水家屋6,338戸、死者321人。
1827	〃 10年5月	洪水—(5月21日)
1828	〃 11年6月	洪水—(6月3日) 宮地1丈7尺9寸。
1831	天保2年5月	大雨洪水—(5月27日) 石橋口1丈6尺6寸、6月1日大雨やまず、石橋口1丈7尺、5日洪水宮地1丈9尺5寸。救米2千俵。
1833	〃 4年6月	洪水—(6月21日)
1834	〃 5年5月	洪水
1835	〃 6年7月	大雨洪水—(7月28日) 宮地1丈4尺5寸。
1836	〃 7年6月	霖雨洪水—(6月15日) 宮地1丈7尺2寸。
〃 〃 10月	10月1日強雨増水、石橋口1丈2尺。救米1,500俵。	
1837	〃 8年1月	洪水—(1月24日) 宮地1丈3尺余、耳納山系生村分に山崩れを生ず。
〃 〃 2月	14日、15日大雨増水、宮地1丈余、救米3千俵。	
〃 〃 6月	大雨洪水—(6月5日)	
〃 〃 8月	大雨洪水—(8月12日) 宮地1丈2尺3寸。	
1838	〃 9年4月	大雨洪水—(4月26日)
〃 〃 6月	大雨洪水—27日大雨。28日洪水となる。川手番所1丈8尺、宮地2丈余、小森野堤約60間崩壊、小森口御門、石橋口御門、番原口御門流失。柳原遊園全壊、久留米城下浸水床上3尺、三邊郡被害多し、堤防崩壊10ヶ所、流家51戸、流馬21頭救米を出す。	
〃 〃 8月	26日より9月1日まで洪水、御城下水高地水2丈8尺、高野村水高地水2丈6尺、潰家並びに流失家屋188戸、稲粟流失、死者、罹災人多数。	
1840	〃 11年1月	洪水—(1月24日) 宮地1丈2尺余。
〃 〃 日田、或疎地方大洪水、田地流失、家屋流失し死者多数。		
1846	弘化3年5月	洪水—(5月12日) 救米を出す。
1850	嘉永3年6月	大洪水—瀬ノ下2丈3尺、沿岸田地すべて荒廃、家屋流失、堤防崩壊し、大飢饉を生ず。救米を出す。
1851	〃 4年二	洪水—上5郡被害甚大、救出救米におよぶ。
1858	【安政5年5月	17日より霖雨、23日洪水、24日宮地1丈8尺、25日2丈5尺となる。
1860	万延1年4月	大雨洪水、沿岸の田地流失、堤防崩壊、宮地2丈2尺。
〃 〃 7月	大雨洪水—(7月8日) 城下低とんど浸水被害多し。	
1862	文久2年6月	洪水—(6月3日) 宮地2丈余。
1865	慶応1年5月	洪水—(5月10日) 宮地1丈5尺。
1866	〃 2年6月	洪水—(6月3日) 宮地2丈余、瀬ノ下2丈5尺5寸、城下浸水。
1867	〃 3年8月	洪水—(8月30日)

第3節 明治・大正期の洪水

明治以降の筑後川における主な洪水は表-2-2 に示すとおりである。ここでは、これらのうち特に規模の大きいものについて詳述する。

表-2-2 明治以降の洪水記録

西暦	年号	原因	水位	被害状況
1874	明治7年8月	大風洪水		27日大暴風雨被害甚大。三浦県管内被害、死者510人、負傷者800人。人家倒壊・流失19,275戸、被動民115,092人。
1878	明治11年6月	洪水		三浦県内被害8万石。
1885	明治18年6月	洪水	瀬ノ下 2丈5尺5寸	沿川各部の被害甚大。(後述)
1889	明治22年7月	洪水	瀬ノ下 2丈2尺4寸5分	未曾有の大洪水。沿川各部の被害甚大。(後述)
1895	明治28年7月	大風洪水		24日大暴風雨被害多し。家屋全壊109戸、半壊83戸。
1899	明治32年7月	洪水	瀬ノ下 2丈4寸	
1901	明治34年7月	洪水	瀬ノ下 2丈2尺9寸7分	霖雨洪水。
1905	明治38年7月	洪水	瀬ノ下 2丈2尺9寸	
1914	大正3年6月	洪水	瀬ノ下 2丈7寸6分 (6.29m)	洪水8日間に及び交通杜絶、農作物壊敗。(後述)
1921	大正10年6月	洪水	瀬ノ下 2丈3尺4寸5分 (7.11m)	連日の降雨で筑後川増水。洗木多く鹿兒島本線鉄道橋を除き橋梁ほとんど流失、被害甚大。(後述)
1928	昭和3年6月	洪水	瀬ノ下 6.29m	洪水のかん水時間長く、三井、三浦、朝倉3郡の被害甚大。(後述)
1935	昭和10年6月	洪水	瀬ノ下 7.15m	47年来の大洪水。(明22年以来)(後述)
1938	昭和13年5月	洪水	瀬ノ下 6.29m	14日の水位
1940	昭和15年8月	洪水	瀬ノ下 8.17m	11日 "
1941	昭和16年6月	洪水	瀬ノ下 6.53m	内水による被害甚大。(後述)
1942	昭和17年6月	洪水	瀬ノ下 6.40m	15日の水位
1943	昭和18年6月	洪水	瀬ノ下 6.42m	20日 "
1944	昭和19年9月	大風洪水	瀬ノ下 6.40m	17日 "
1946	昭和21年7月	洪水	瀬ノ下 6.45m	8日 "
1947	昭和22年6月	洪水	瀬ノ下 6.25m	24日 "
1948	昭和23年7月	洪水	瀬ノ下 6.54m	6日 "
1949	昭和24年6月	洪水	瀬ノ下 7.10m	17日、60年ぶりの洪水ともいわれる。(明22年以来)

西暦	年号	原因	水位	被害状況
1949	昭和24年8月	大風洪水	瀬ノ下 7.50m	17日、前日よりの大風について豪雨あり。
1950	昭和25年9月	大風洪水	瀬ノ下 6.67m	14日、キジヤ台風で洪水あり。
1951	昭和26年7月	大風洪水	瀬ノ下 7.00m	ケイト台風に続き連日の風雨で水稲被害全耕地の2/3に及んだ。
1953	昭和28年6月	洪水	瀬ノ下 9.02m	未曾有の大洪水。筑後川沿岸一帯大被害。(後述)
1954	昭和29年6月	洪水	瀬ノ下 6.68m	30日の水位
"	" 7月	洪水	瀬ノ下 6.35m	19日 "
"	" 9月	大風洪水	瀬ノ下 6.33m	26日 "
1957	昭和32年7月	洪水	瀬ノ下 6.70m	3日 "
1959	昭和34年7月	洪水	瀬ノ下 6.00m	7日 "
1962	昭和37年7月	洪水	瀬ノ下 6.40m	6日の水位、4日(6.40)、6日、8日(6.60)とピーク水位3回あり。
1963	昭和38年5月	洪水	瀬ノ下 6.10m	11日 "
"	" 8月	洪水	瀬ノ下 6.86m	17日 "
1965	昭和40年6月	洪水	瀬ノ下 7.02m	20日 "

1. 明治 18 年 6 月洪水

この洪水は、次に述べる明治 22 年の洪水とともに、筑後川の改修計画樹立の契機となった重大な意義をもつもので、瀬ノ下水位は2丈5尺5寸(7.72m)におよび長谷における流量は28万立方尺/秒(約7,800m³/sec)と推定されている。この状況を「筑後川改修の由来」によれば「河水四方にはん溢して一大湖をなせり、即ち筑前、筑後、肥前の3国に跨る一大平坦の地をして、さらに委じて漢々たる一江海を顕出し、其損害の如きは家屋家財の流失、堤防破損等1、2に止まらずさらに莫大のことなり」と述べている。

1) 降雨および水位状況

久留米および下関における雨量は表-2-3 のとおりであり、また瀬ノ下における時間水位曲線は図-2-1 に示すとおりである。

表-2-3 久留米および下関雨量 (単位: mm)

観測所 年月日	久留米				下関			
	午前6時	午後2時	午後9時	計	午前6時	午後2時	午後9時	計
M. 18. 6. 15	44.5	43.1	—	87.6	6.1	53.2	28.1	87.4
16	1.3	—	41.3	42.6	9.7	1.1	2.7	13.5
17	61.9	94.6	12.6	169.1	47.5	36.2	1.6	85.3
18	—	—	—	—	—	—	—	—
19	—	—	—	—	—	5.5	4.8	10.3
20	31.8	—	—	31.8	20.9	—	—	20.9